

利根川



VOL. 3

1999 4月号

利根川水系農業水利協議会
群馬県支部情報紙

編集・発行 利根川水系農業水利協議会群馬県支部
〒371-0837 群馬県前橋市箱田町350
027-251-4105

会員紹介コーナー

鐺川土地改良区



鐺川土地改良区は、国営鐺川農業水利事業が着工された、昭和34年に設立され、国営事業、県営事業によって完成された、水利施設の維持管理を行っています。

当地方は川床が低く鐺川の水利用が困難で、特に畑作台地は旱魃の常習地帯であったため、国において鐺川の支流南牧川に南牧頭首工を設け、基幹水路30.3kmを新設し、基幹水路の途中に大塩・竹沼の貯水池を新設し、河川の豊水時に貯水し、渇水時に不足分を補うという目的で、国営が昭和45年、県営が同49年に完成しました。

受益地は、富岡市、藤岡市、下仁田町、甘楽町及び吉井町で当初2,635haの受益地で発足しましたが、既設の水利組合の関係や、社会情勢の変化による水道転用などがあり、現在の水利権面積は1,628haとなっています。

国営で造成された水路は隧道が多く、地域用水としては不向きですが、2つの貯水池（大塩・竹沼）は環境用水として、大きな役割を果たしております。

中村堰土地改良区



中村堰土地改良区は、用水の歴史は古く鐺川水系最古といわれており、奈良朝時代（800年～）に開削されたと推測されています。

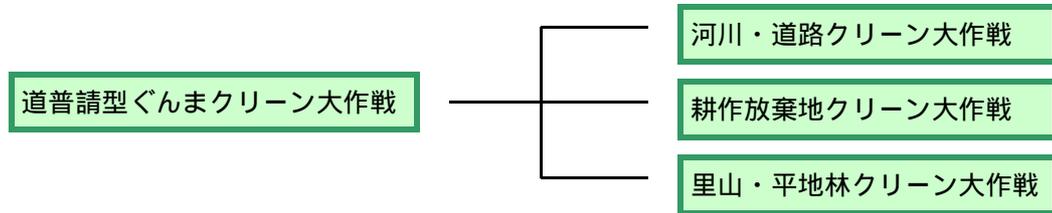
当地区は藤岡市の北部に位置する美土里、小野、神流地区及び多野郡新町の一帯を灌漑しております。昔この地区には中村堰、立石堰、森新田堰と3堰がありましたが、寛保2年（1742年）の大水害により大被害を受け2施設は流失壊滅してしまい難を逃れたのが中村堰だけであり、合口にて復旧して地域を潤しているのが現在の中村堰用水です。

時代は過ぎて当地に泉通寺という寺があり、その時の住職「大溪考順」という立派な和尚さんがいて鐺川から豊富な用水を引けるように栗板で作った埋樋（サイフォン）を安政4年（1857年）に考案し工事を完成させました。孝順和尚（1889年没）さんのこの偉業にたいし中村堰中興の祖として尊敬され現在でも語り継がれています。

明治10年（1878年）に内務省が新町へ官営屑糸紡績所（現在の鐘紡新町工場）として工場を建てました。動力源となる電気を起こす水車を回すために中村堰用水が使われていた、灌漑用水、生活用水、防火環境用水等々の長年にわたり地域資源として貢献してきました。

耕作放棄地クリーン大作戦

県では新規事業の「道普請型ぐんまクリーン大作戦」を県民参加型の公共事業として、土木、農政、林務の三部協調で今年度から実施します。農政部ではこのなかで「耕作放棄地クリーン大作戦」を実施しますが、これは耕作放棄地の花の景観づくり、ゴミの除去及び農業用排水路の清掃活動や花づくり活動をとおして農村地域が有する景観の維持・保全を図ろうとするものです。



事業の内容

- 1) 耕作放棄地における花の景観づくり
- 2) 耕作放棄地のうち防災上保全管理が必要な農地におけるゴミ等の除去、草花の植栽、簡易な保全対策等
- 3) 農業用排水路の草刈りなどの清掃活動や草花の植栽等

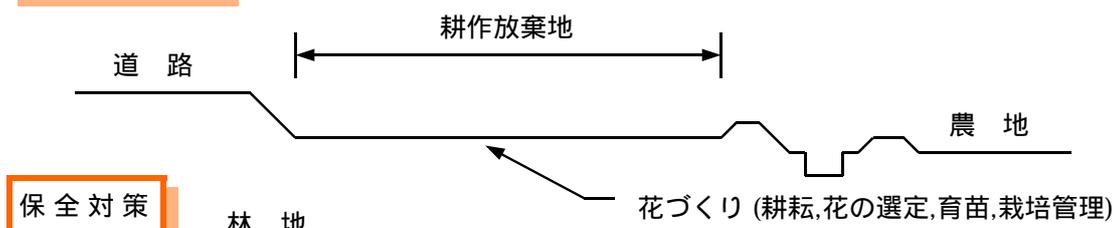
事業主体

自発的に美化活動を行う住民団体等(自治会・ボランティア団体などで登録団体の規模は10人以上とします。)

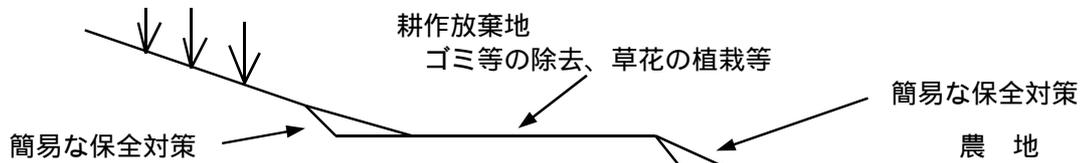
なお、詳細については、土木事務所・農政事務所・林業事務所へ問い合わせして下さい。

ト
ピ
ッ
ク
ス

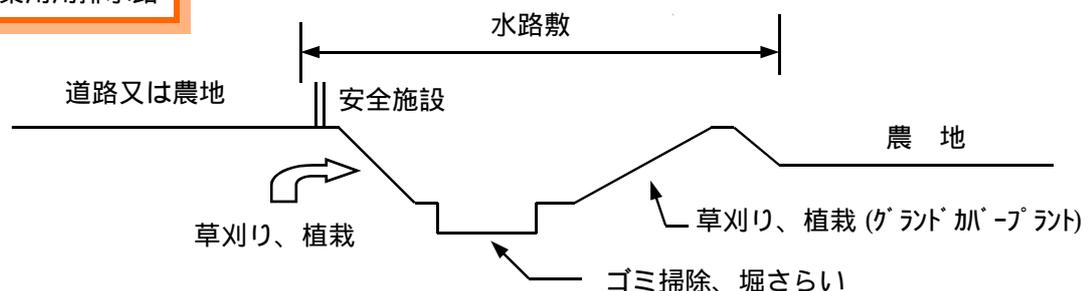
花の景観づくり



保全対策



農業用排水路



水に関連した故事・成語コーナー



水と油 あぶら



水と油が混ざり合わないように、しっとり調和しないこと、たがいに性分しょうぶんのあわないことをたとえていう。

水の滴 したたるよう

水が滴るかのように人の顔や肌などが瑞々みずみずしく美しい。きわだって美しいさまの形容。

背水の陣



これが最後と覚悟を決めて全力を尽くして物事にあたること。川をうしろに陣をしいていれば、前の敵を破るしかないことから、この例えが出た。



用語解説コーナー

河川整備基本方針、河川整備計画

平成9年に改正された「新河川法」では、旧法における工事实施基本計画に替えて「河川整備基本方針」と「河川整備計画」を定めることとなりました。

これらを作成する際には、河川環境の整備と保全に関し、流水の清潔の保持、景観、動植物の生息地または生育地の状況、人と河川との豊かなふれあいの確保を考慮することとしており、「河川整備基本方針」には河川整備の基本となるべき事項、「河川整備計画」には具体的な河川工事及び河川の維持に関する事項を定めることとしています。

私たち農業利水者にとって最も関連することは、「河川整備基本方針」には維持流量が、また、「河川整備計画」には正常流量が記載されることです。

正常流量とは、渇水時において維持流量と利水用量の双方を満足する流量のことです。

維持流量とは流水の正常な機能を維持するために必要な流量のことですが、具体的には漁業、景観、河川管理施設の保護、地下水位の維持、動植物の保存、流水の清潔の保持などを総合的に考慮して定めます。

利水用量は、かんがいや上水道などの目的のために流水を占有している用量のことです。

利根川本川について建設省では、平成11年度に「河川整備基本方針」、平成12年度に「河川整備計画」を定めようとしており、県内の河川は県河川課が順次定めていく予定となっています。

県河川課では、碓氷川において平成11年度に「河川整備基本方針」を定める予定ですが、このなかで地域の意見を聞くために「流域委員会」を設置する方針です。

岡崎用水土地改良区



岡崎用水は、元和の昔、初代代官岡上九左衛門景純公により開発され、三代目代官岡上治郎兵衛景能公のときに完成、今日に至っております。宝永5年に榛名湖水利権紛争があり、江戸において数年間水利権確保のため奔走し、更に裁判も9ヶ月に及び水利権を勝ち取り、その後、岡崎水利組合が設立されました。土地は、軽石混じりの砂礫土であり、地域内の水路は殆ど素掘水路のため取水利用も困難をきしている状態でした。農家は畑作を主とした低位生産の営農方法を転換して経営の安定を計るべく、昭和37年7月30日岡崎用水土地改良区を設立、当時の組合員数は132名であり、幹線用水路は三面コンクリート、支線水路にはU字溝を使用、貯水池は広場地区に1ヶ所、柏原地区に1ヶ所、水路3,954m、水田40㍉の土地改良事業を行い、昭和43年に完成しました。

その後、昭和63年度(平成元年1月)に岡崎土地改良区を設立し、現在、県営ほ場整備事業を実施中であります。基盤整備と共に貯水池5ヶ所を設置し、パイプラインによる田畑への給水、従来の水路は工事と共に廃止され平成11年度に完了の予定であります。

群馬県内ダム紹介コーナー

矢木沢ダム



ダム諸元

管理者	水資源開発公団	流域面積(km²)	167.4	型式	アーチ式コンクリートダム
河川名	利根川	湛水面積(km²)	5.67	放流設備	クリスタルゲート、バルブ
貯水池名	奥利根湖	位置	群馬県利根郡水上町	発電	矢木沢発電所(東電)

目的

洪水調節・特定かんがい・発電・水道用水